

教員名	藤崎 宏子 (FUJISAKI Hiroko)
所 属	生活科学部人間生活学科生活社会科学講座
学 位	文学士(1976 年、東京教育大学)、家政学修士(1978 年、お茶の水女子大学)、社会学博士(1998 年、筑波大学)
職 名	教授
URL / E-mail	http://www.soc.ocha.ac.jp/fujisaki/ / fujisaki@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

高齢者 / 家族 / 福祉政策 / 社会的ネットワーク / ライフコース

◆主要業績

総数 (3) 件

- ・お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム・プロジェクト 4 平成 18 年度研究成果報告書『中年女性のライフスタイルと危機的移行－第二次パネル調査報告書－』
- ・『介護の社会化』－その問題構成
- ・個の老い・関係性の中の老い

◆研究内容

- ①お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム『誕生から死までの人間発達科学』プロジェクト 4 のリーダーとして、中高年期の危機的移行と社会的支援に関する研究を進め、とりまとめた。
- ②科学研究費補助金を受け、2003 年に中年期男女を対象に実施した調査の追跡調査をおこない、3 年間の生活変化につき考察した。
- ③高齢者介護政策の動向と家族介護者の社会的支援へのニーズ、高齢者自身の自己決定との間に生じている齟齬に関する研究を継続的におこなった。

◆教育内容

- ①卒業論文 (10 名) の研究指導及び論文指導の主査を務めた。
- ②博士論文 6 本の審査委員を務めた。
- ③タイからの私費留学生 1 名を研究生として受け入れて指導した。彼女は、2007 年度に博士前期課程に入学した。

◆Research Pursuits

ncy between elderly care policy,family's needs for social support and elderly's self-determination.

◆共同研究例

中高年期の危機的移行に関する追跡的研究

◆共同研究可能テーマ

- ・ライフコース・パースペクティブにたった中年期の移行と支援に関する研究
- ・ケアに関する質的研究

◆将来の研究計画・研究の展望

- ①2006年度で終了した21世紀COEプログラムのプロジェクト研究（中高年期の危機的移行と社会的支援に関する研究）を基礎として、科学研究費補助金によりさらに研究の展開を図る。中高年期における発達の様態をキャリア間との関係と世代間関係に注目しつつ、継続的に調査研究していく予定である。
- ②高齢者介護政策の動向と家族介護の実態との間に生じている諸問題に関するこれまでの研究を整理し、できれば単行本にまとめたいと考えている

◆受験生等へのメッセージ

「あたりまえ」の世界に安住しないで疑ってみること、あるいは視点を少しずらして別の面を見ようとする。そんなちょっとした冒険が、あなたの世界を広げ、より豊かなものにしてくれるでしょう。社会学の研究テーマは無限です。研究すること、自分が生活すること、そして生きることそのものが密に絡み合っているところが社会学の魅力であり、同時にしんどさでもあるかもしれません。閉塞感の強い時代ですが、だからこそ、自分について、周囲の人間関係について、そして社会のしくみについて、社会学的思考の武器をもって、深く掘り下げていきましょう

◆Educational Pursuits

e entered master's course,in April 2007.